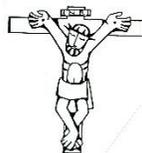


風のよう

甘木教会



主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

目が見えるようになったということを感じなかった。

ヨハネによる福音書9：18

【説教要旨】

現代、私たちは、予想しなかった社会の劇的変化の中で、今日と明日がまったく違うという未来を予想できない日々を暮らしています。目が開けなくなっているように思え、不安でいっぱいです。そんな中を生きつつ、私たちはどう生きていけば良いかといつも問い、祈っているのではないのでしょうか。

この時代に幼稚園の運営をどうするかということで、経営コンサルタントによってコンサルを受けました。私が予想したような答えでした。コヘレトの言葉のように「太陽の下、新しいものは何ひとつない」と感じました。しかし、私の考えていたことを綺麗に整理してくれたことは大変に助かっています。

「知恵が深まれば悩みも深まり 知識が増せば痛みも増す」というコヘレトの言葉が響いてきます。

そういう中で、今日の聖書を与えられました。生まれつき盲人であった人がでてきます。彼は光のないところを生きてきた。そのために彼は貧しい生活を余儀なくされています。物を請うて命をつないでいました。この不幸を見た弟子は問います。「弟子たちがイエスに尋ねた。『ラビ、この人が生まれつき目が見えないのは、だれが罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか。』」と。このような不幸はどうして起きるのか彼らはイエスさまにその原因を問うています。なぜこのような不幸が起きるのか。私たちもやはり色々な不幸が起きるとき、あるいは理解できないようなことが起きるとき、いったい、なぜそんなことが起きるのかを問うのです。そして、原因を見つけて、

解決したいと私たちも同じようにイエスさまに聞きたいことが、今の時代、たくさんあります。

幼稚園の運営をどうしようかとコンサルタントに聞いたのは、そんな心の動きだったと思います。

イエスさまは不思議な答えをなさいます。「神の業がこの人に現れるためである。」と。

これについて井上良雄先生が次のように言っています。「これは本当に、何という驚くべき答えでしょうか。弟子たちがこの盲人を見ている目と、イエスがこの盲人をご覧になっている目と、その間には、何という大きな隔たりがあることでしょうか。ここには人間を見、また世界を見る見方の、非常に大きな転換が示されています。すなわち、弟子たちの目は、ただひたすらに過去にだけ向けられています。そして、このような不幸にいったい何が原因で起こったのかということを探索しています。この人自身の罪のためか、あるいはその両親の罪のためか—そのようなことを探索しています。彼らはイエスの弟子でありながら、そういう所から離れられないのです。ところが、イエスの言葉は、弟子たちのそのような問いそのものの方向を変え、目を未来に向け、将来に向けます。すなわち、この盲人の確かに不幸なこの状態を、神はどのようにお用いになるのか、それをを用いてどのようなことをしようとしておられるのか、この盲人を神の栄光のどのような舞台として用いようとしておられるのか、そのような方向へと、弟子たちの問いを、方向転換されるのです。」(『ヨハネ福音書を読む』井上良雄 新教出版)

幼稚園を運営していて、私たちは、方向の転換の時代を生きていると強く実感しています。少子化で、大変に厳しい運営状況にあります。このような厳しい状況にいったい何が原因で起こったのかということを探索しています。しかし、この世的な知恵、知識に探索するのではなく、イエスさまは、弟子たちのそのような問いそのものの方向を変えて、目を未来に向け、将来に向けたように、この厳しい状況を神はどのようにお用いになるのか、それをを用いてどのようなことをしようとしておられる

のか、この状況を神の栄光のどのような舞台として用いようとしておられるのか、そのような方向へと、私たちの問いを、方向転換されるのです。私たちの方向の転換とは、神が何をなさろうかとしている事に私たちはもっと、もっと目を向けないと思います。ここには暗いものに支配された世界でなく、新しい光の中であり続ける世界ですそこには「ただ一つ知っているのは、目の見えなかったわたしが、今は見えるということです。」という出来事だけが起きるのです。課題の大きさで、重さで怯んでマイナス指向しかできない私たちが、マイナスだと思える状況にあって、それを「神の業がこの人に現れるためである。」というように神の働きに目をむけることです。

シロアムの池という名があります。「遣わされた者」という意味です。神が遣わされた者とはイエス・キリストです。このイエス・キリストのところに、この方の働きを感じることで、時代が変化していくときだからこそわたしたちは本当の意味で、信仰をもって、神の、イエスさまの働き、力がどのように働くかということ凝視する時代です。

江戸時代の近江商人、「三方よし」の理念の中村治兵衛の書置きに、「仏神の事、常々信心に致され候て（日頃から神仏への信心を厚くしておくことが大切である。）」言葉は、ぼっとしていれば店さえつぶされている厳しい経済社会にあって、人間そのものが裸であらわれてくる、いまでいえば経済世界を生き抜いた人が書置いたことは、人の働きでなく、常々信心だという、つまり神の働きを信じるというのです。斎藤孝さんは、「迷いがあっても、何かを信じる力があれば、前に進むことができます。・・・どんなに迷っていても、一歩踏み出せば違う景色が見えてきます。この一歩に大きな意味があると信じて、足を前に出す。これが、信じる力であり、生きる力だと思うのです。

（『信じる力』斎藤孝 女子パウロ会）」と言っています。

神の業がこの人に現れるためであるとひたすら信心、イエスさまの働きが私のうちに起こす将来の喜びを希望しつつ、幸いを感謝し、祈りつつ共に歩みをしたしたいと思います。

牧師室の小窓からのぞいてみると



3・11の東日本大震災からもう15年たった。

幼稚園の桜の木が揺れて、これ以降、桜の木は枯れ、預かり保育の保護者が迎えに来られなくて、遅くまで預かった。先生方が帰ることが難しくなり、卒園式を控えていた数日、園に泊まることになった。震災後、次々と異常な事があった。大井斎場は、地震で亡くなられた方を茶毘にふすとき、宗教を超えて宗教家が祈りをささげた。教会からは引退者のTJ牧師が窓口となった。

復興のボランティアに信徒さんと出かけ、木造の教会堂、園舎の建て替えをしなくなり、忙殺されているとき、教会は被災者の子どもが20歳になるまで応援しようとチャリティーコンサート始めた。私が教会を去っても15年目のコンサートをしたという。忘れないことが大切だと思う。



園長・瞑想？迷走記

私は、真面目を着たような人間である。不真面目な人、他の人と違う行動する人がどうしても受け入れられない傾向がある。困ったことにどこを切っても金太郎と言う金太郎あめの様な画一ということが安心できる。そういう自分がいるということ、ということ、自分を自分自身が知ると自分の経験を通して、真面目なことが、画一ということがどんなに面白くない、心の成長を妨げるかを分かるようになってきた。だから、真面目一点張りではなく、もっと色々なことがあって、色々な人がいた方が楽しいよねと自分に言い聞かせている。牧師になり、幼稚園の園長となった。いろいろな体験をしながら色々な人と出会い自分は鍛えられて、楽しく、色々なこと、色々な人がいて良いねと。

だから、色々な子どもがいて、色々な教員、職員がいる教会、幼稚園があっても良いよねと思う。だって、どんな人でも神さまに愛されているんだから。正直、教会、園を運営していくには、一緒に歩いていくのは非効率的だし、大変だけど「これでいいのだ」と言えるようになってきた気がする。

日毎の糧

聖書：命のある限り／恵みと慈しみはいつもわたしを
追う。主の家にわたしは帰り／生涯、そこにとどまる
であろう。



詩編23:6



ルターの言葉から

「悪魔は信仰者を、内的には恐怖を与えることによつて、外的には偽りの教師による策略や、圧倒による暴力などによって苦しめることを決してやめないで、彼（ダビデ）はここで最後に、この宝（福音）を与えてくださった神が、また彼を終わりまで傍らで守ってくださるように熱心に願い、『ああ、愛する神が、恵みといつくしみは命のある限りいつも私を追う、という恵みをお与えくださるように』と言う。また同時に、彼は、『恵といつくしみ』によって意味しているもの、すなわち、『主の家に永久にとどまることができること』をここで示している。」（『慰めと励ましの言葉 マルティン・ルターによる一日一生』湯川郁子訳 徳善義和監修 教文館）

命のある限り

この詩人の結論は自分の人生が、罪と危険にさらされていても、私の人生は「23:6 命のある限り／恵みと慈しみはいつもわたしを追う。」であり、最後は「主の家にわたしは帰り／生涯、そこにとどまるであろう。」という未来が私たちの内にあるというのである。人の時間・空間に神は隠されている。しかし、「あなたがわたしと共にいてくださる。」という事実が私たちの事実であり、「命のある限り／恵みと慈しみはいつもわたしを追う。」ということが私たちの現実である。永遠のうちにあっては、「主の家にわたしは帰り／生涯、そこにとどまるであろう。」という出来事が私たちの歩みである。深い感謝をもって、自分の人生を詩人は見ている。

祈り：厳しい現実の歩みにもあなたの恵みと慈しみがともなうことへの
信頼の人生の旅となりますように。アーメン。

甘本通信

コヘレトは言う。なんという空しさ、なんという空しさ、すべては空しい。太陽の下、人は労苦するが、すべての労苦も何になろう。コヘレト1：2



人生の転換点（ターニングポイント）がブラジルであったことをお話した。多くのイエスにあっての人と出会った。プロテスタントの全ての教派の連盟体であったブラジル・キリスト教連盟で、年寄りの牧師から「エンシャーダ（鋏）も担いだこともない者に言われたくない」と言われたことがある。開拓で苦勞し、伝道をしたこともない戦後の豊かな日本から来たあんたたちから言われたくないということであった。

「日は昇り、日は沈み あえぎ戻り また日が昇る。コヘレト1：4」。あえぎ戻り、また日が昇り、明日が来る。日のあえぎ戻る日は、日だけでなく、開拓に疲労困憊した開拓民にとって、エンシャーダを担ぐ自分たちもあえぎ戻る明日を迎えたい開拓民のあえぎ戻りのあえぐ息遣いが聞こえてきた。

その時は、若気の至りということ、くそ爺、くそ婆と心で思っていたが、かつての開拓地にある教会を歩き、多くの方々から苦勞話を聞くたびに「日は昇り、日は沈み あえぎ戻り また日が昇る。」ということ、どんなにつらく、しかし、どんなにつらくてもここを歩み通した先人がいたから自分が今、ここにいるということに気づかされほどの多くの人に出会った。よくここまで生きてきたという先人の生のあえぎの息に触れて、自分を深く反省し、自分の心が開かれ、あえぎ戻り また日が昇るといふことの辛い人生に出会っても、生きることが全てだと思ふような変な自信が与えられた。

(甘本日記)土) 羽村幼稚園の理事会、評議員会。終わり 20 時の飛行機で羽田をたち、23 時 30 分に久留米着。よく動ける。日) 始発の電車で甘本教会に。出席者も少なく、ゆっくり礼拝の時間が流れていく。月) 早朝、日善幼稚園に。Zoom で羽村幼稚園の理事会、評議員会議事録を作成。便利な時代だ。火) 日善幼稚園の卒園式・式次第を英語、タガログ語に AI を使って作る。便利な時代だ。水) 熱が出て幼稚園を休む。インフルエンザでもコロナでもない。木) 松崎保育園に。午後からは日善幼稚園の運営委員会。金) 日善幼稚園卒園式。楽しく無事に進んだ。ホットかな。

おまけ・牧師のぐち (続日記) 牧師だって神さまの前でぐちります。 はぐちらない聖人 (牧師) もいますが。



土) 羽村幼稚園理事会、評議員会も終わり、少々、疲れを覚える。孫たちに駅で会い。教会、幼稚園の先生らにチョコクッキーを購入。20時の飛行機で福岡へ。帰宅は23時30分。甘木の最終電車はなく。自宅。家内は甘木で泊。居ると煩いが、居ないと何かが足りない。日) 一番の電車で甘木へ。礼拝中、気温が寒くなる。礼拝後、チョコクッキーをみんなで食べる。月) 朝早く、日善幼稚園に。羽村幼稚園の園長が議事録を書くのが苦手だと言うので、理事会、評議員会の議事録を副園長、園長補佐の助けをいただき、

zoomで私も加わり作る。その後、日善幼稚園の終礼報告作成。火) 「りんごの木」から、午後、キリスト教書店の新生館から本が来る。本にお金をかけることの大切さを教えてくれたのは父であり、友人のN君だった。引退して本をこれ以上、買わないことにしていたが。日善幼稚園運営委員会の資料作り、卒園式・式次第を英語、タガログ語にAIを使って作る。次に終礼報告作成と作る。私は、どちらからというところいう類のものは苦手、歳でさらに難しいのだが……。夕刻、家から数分のホテルで筑後地区園長会。なかなか厳しい状況のみを知る。理想な幼稚園をめざしたい。夜、悪寒が走る。そういえば、朝から手が冷え切っていた。明日は病院に行こう。水) 高温が続き、幼稚園を休み、病院へ。幸いインフルエンザ、コロナでもなく良かった。休めと言う体の信号かもしれない。来週は、大学病院に検査。老いていくことの一つのこまであるにすぎない。木) 松崎保育へ。着くと青空に木蓮の花が咲いている。清々しさに大感動。冬から春への一步がさらに進んだのかもしれない。午後から日善幼稚園に戻り、運営委員会。厳しい状況にあって、どう、リスト教育を続けられるかの試練のとき。試練は練達。希望を持って歩もう。悪寒が治まらずにすぐに帰宅。九時には布団の中に。金)

日善幼稚園の入園式。12名の園児が園を旅立っていく。神ともに。フィリピンから来て、未だに日本語がたどたどしい子にお別れの言葉をたどたどしい英語で語りかける。「Sくん、幼稚園は楽しかった？フィリピンから日本に来て、大変だっただろうし慣れるまで時間がかかったと思う。でも、よく頑張ったね。園長先生とも一緒に遊んだね。楽しかったよ。君は、可愛い、それ以上に君は紳士だ。そして、神さまの子、愛の人だ。小さな友だちを助けてくれたね。ありがとう。園長先生は君がくれた思い出を宝にします。君も幼稚園の思い出を宝にしてくれると嬉しいよ。小学校に入学しても神さまが守ってくれます。行ってらっしゃい。いつでも幼稚園に来てください。」と。本当にたどたどしい英語でのかたりかけだった。語学のセンスもない。ないないづくしの自分。よくここまで来られたと思う。一週間も終わり。みんなでチョコクッキーを食べて、ほっと。

